

2020.08.02 聖書預言アップデート

瀬戸際（せとぎわ）

<https://youtu.be/pBJD1Ua05Gs>

おはようございます。オンラインの皆さん、ようこそ。これは私たちの毎週の聖書預言アップデートです。今日は始める前に、いくつかお伝えする事があります。1つ目は、初めて来られたかもしれない方、またオンラインで初めてご覧になっている方々へ。これは午前9時にライブ配信する第一礼拝ですが、実際現地時間の8:30から始めています。そして、この第一礼拝をライブ配信します。それが預言アップデートです。しかし、第二礼拝は聖書の学び。節ごとの聖書の教えで、ハワイ時間11:15にライブ配信します。そして、私たちは現在「第一テモテ」を学んでいます。特に今日は、その学びに是非私たちと一緒にご参加されるのをお勧めします。なぜなら、預言アップデートで話し合うことと実に結びついているためです。なので皆さんそうなさるのを勧めます。それから二つ目は、この木曜日、8月6日にKaloTVがここに来て、「社会正義：王国的展望」というタイトルのパネルディスカッションをします。KaloTVのマララ・パウの司会で、サミュエル・ガーナーとマック副牧師が以下の質問に答えます。

「今の世代がいかに惑わされ、騙されているか、」「ブラック・ライヴズ・マター運動がどのようにして今のような分裂の文化を生み出してきたか、」そして、「イエス・キリストを信じる者が、これらの問題について取るべき立場」としてまた「教会の適切な応答」について。教会は、悲しいことですが、、え～それは木曜日の夜のディスカッションでお願いします。これは特に若い人たちに向けたものとなります。彼らの多くが、これに夢中になっています。ですので木曜日の夜、是非お越しください。7時から始まります。木曜日の夜にいつもするように、私たちは賛美礼拝から始めます。その後、オンラインでご覧の方々には、7:30にライブ配信されます。もちろん、それは地元のKalo TVで放映され、世界中どこでもご覧になれる、Kaloアプリでライブ配信されます。木曜日の夜にぜひご参加ください。さて、それでは始めましょう。私がお話したいのは、こんにち世界で起こっている全ての事を考慮すると、私たちが瀬戸際に立っている可能性が大きいという事です。その表現は、通常、何か破滅的な事を話すのに使われるのは分かっています。しかし、私は、私達が瀬戸際に立っている事に関して別の視点から話したいのです。先週私は、一息ついて、必要な全体像を得るべく、時間をかけて、主に願い求めました。私は、特にここ数回のアップデートが、-もっと良い言葉がないのですが、-クセのあるものだったことを進んで認めます。私はその言葉が好きです。ちょっと古いけど、まだ好きなんです。

すごく80年代的ですが、気にしません。本当にクセがあつて、本当に重く、本当に重圧的で、本当に深刻なものでした。受け取り側におられ、それを聞く側の皆さんの事も分かりますが、このように考えてみてください。これはちょっと都合の良い事を言っているように聞こえるかもしれませんが、しかし、受け取る側にいる皆さんも大変だったかもしれませんが、教える側の私は？ 本当に、すごくキツイです。私は本当に主に何度もこう伺った事がありました。「主よ。本当ですか？...私は本当はこんな話はしたくありませんから...」とにかく、私はこの一週間の大半を費やして、諺にあるように、木から一步退いて、言わば、預言という森がもっとよく見えるようにしました。そうすることで、主は私を導いてくださり、私を大いに励ましてくださいました。瀬戸際にいるという事は、実際には良い事であり、神のなさる事でさえもあります。皆さんが最後まで話を聞いて下さることを願います。私は、何よりも先ず、こんにちの私たちが、イエス・キリストの教会の携挙の瀬戸際にあるかもしれないというのは何

故かを説明したいと思います。そして携挙が何であるかを完全に理解しておられないかもしれない皆さん、大丈夫です。それは第一テサロニケの4章17節にあります。ここで使徒パウロは、キリストにある死者が最初によみがえると言っています。つまり、イエス・キリストにおいて新生し、携挙の前に亡くなった信者たちは、彼らの体が先に復活します。そして、その時点で生き残っている私たちは引き上げられるのです。原語であるギリシャ語の新約聖書では、ハルパツオというギリシャ語です。ラテン語では、ラプトゥルスです。英語ではそこからラブチャー（携挙）と音訳されました。携挙という言葉が聖書に登場するのはそこです。ラテン語の聖書を持っておられるなら。しかし私たちは、引き上げられます=caught up 瞬時に。実際、パウロが第一コリント15章50-51節でこう語っています。携挙が起こるとき、私たちは瞬く間に引き上げられ、それは瞬きというよりも、キラッと煌めくような、そのくらいの速さです。それくらい速いんです。実際、それを数学的にそれを計算した聖書学者たちがいます。それがどれくらい速いかは、想像しにくいものです。それは、1秒のほんの一部の、そのまた、ほんの一部です。私たちが引き上げられるのは、それほどすごいスピードなんです。私たちは朽ちていくこの肉体を脱ぎ捨てます。それが、待ちきれません～～！そして私たちは、栄光の朽ちない体を身につけます。そして空中で主と会うのです。先に亡くなった愛する全ての人たちと共に。私は娘のノエルに再び会うのが待ちきれません。また母に再会するのも待ち切れません。父にも会いたいです。会えるかもしれないと信じています。彼らは先に新しい体になって先に復活しますから。

「それから生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。」（第一テサロニケ 4:17）

それはとても速く、突然に起こります。キーワード=突然　それが携挙です。一步踏み込んで提案しますが、携挙が引き金となって、これまた瀬戸際にある他の多くの聖書預言の成就を引き起こす事になるかもしれません。これはもちろん、聖書の真理である、患難前携挙という健全な教義を理解し、知っている事を前提とします。それについては、この時間の終わり頃に、もう少し詳しくお話ししたいと思います。私が今したいのは、すべてがどう展開していくのか、数週間後、数ヶ月後のもっともらしいシナリオを提示することです。私は決して自分が全てを把握しているような態度で臨みたくはない事をご理解ください。実際、把握していませんから。誰も把握していないし、誰にも把握できません。しかし、私たちに出来ることは、聖書預言に関して真実だと分かっている事に基づき、しるしを解釈することです。マタイの福音16章へ皆さんの注意を引かせてください。1～3節を読みたいのですが、ここで起こっている事をよりよく理解できるよう、背景をお伝えしたいと思います。旧約聖書には、イエス・キリストの初臨についての預言が300以上あると言った人がいます。キリストが初めて来られた時、彼を信じなかった人がたくさんいました。もちろん、ユダヤ人は彼を拒否しました。パリサイ派やサドカイ派と呼ばれる宗教指導者たちが、彼を罠にかけて騙そうとする事が何度もありました。大きな過ち！彼を追い詰め、彼を罠にかけるため 巧妙な質問をします。「彼がこれにどのように答えるか見ようぜ。彼をハメたぞ！」そして、私が大好きなのは、イエスはもちろん、完全な答えをされます。イエスは、彼らの大言壮語する 冒流的な口を封じます。この箇所でもそうです。

「パリサイ人とサドカイ人たちが、イエスを試そうと近づいて来て、天からのしるしを見せてほしいと求めた。」（マタイ 16:1）

つまり、あなたが本当に救世主であるなら、私たちはしるしを要求する！という風に。「見る事が信じる事(百聞は一見にしかず)。」と言われているのだから。皆さん、それが真実でないのをご存知ですね？

実際はその反対で、「信じるが見ること」なのです。でも、彼らにはそうではありません。彼らは、「私は見れば信じる。」「しるしを見せて。」私にとってとても印象的な事の一つは、救い主の口から発せられた最も厳しい言葉は、その日の宗教指導者のために用意されていたという事です。これがイエスの答えです。イエスは彼らに答えられた。「夕方になると、あなたがたは『夕焼けだから晴れる』と言い、朝には、『朝焼けでどんよりしているから、今日は荒れ模様だ』と言います。」偽善者たち。

「空模様を見分けることを知っていながら、時のしるしを見分けることはできないのですか。」（マタイ 16 : 1-3）

イエスがここで何と仰っているか皆さんお分かりですか。イエスはこう仰っているのです。預言的なしるし私たちに与えられているのは、解釈するためであり、私たちが、来たるべきもの、あるいは、最終的な目的地として、私たちが向かう先に、どれほど近づいているかを知るためです。旧約聖書において、イエスと、イエスが最終目的地として地上に来られる事を示している全てのしるしは、元の原語では非常に興味深い単語で、ヘブライ語では、私の母語のアラビア語と同じ言葉で、モアッドという語です。それは、「定められた時間、または約束をも指し示すしるし」という概念を伴います。たとえば、アラビア語で私が、「アナーアンディモアッドマアコム」と言ったら、皆さんに悪いことは何も言ってませんよ。言えますけど、言いません。私がアラビア語であなたに言ったのは、「私にはあなたとの約束があります。モアッド、約束。」私には、まだ未来を指すもの、約束の時があります。それは約束です。それを指し示すのです。しるしとは、そういうものです。モアッド。あなたに最終目的地を指し示すものです。それがイエスがここで話していることです。道路標識のようなものです。それらはモアッドだと言ってもいいでしょう。1997年に、妻と私はヨルダンとエジプト、中東に旅行しました。私たちは私の母が生まれたヨルダンに行き、私の父が生まれたエジプトに行きました。これはBCのことでした。紀元前（Before Christ=キリスト生年前）ではなく、Before Children = 子供誕生前。私たちが世界を旅できた頃です。思い出すのは、ここハワイではあまりありませんが、本土では非常に高価なキャンピングカーを見ます。後ろにこういうバンパーステッカーを貼っていて、「私達は子供達の相続財産を費やしている。」私が欲しかったバンパーステッカーは、「子供達の相続分を使っている、私たちには子供はないけど。」多くの人を知っているように、私たち夫婦は子供ができませんでした。10年間子どもができず、養子を貰おうともしました。それはまた別の機会の別のトピックですが。でも、エジプトで、私は地中海に面した美しいアレクサンドリアに行きたいと思いました。私たちは叔母の家に泊まっていました。彼女はピラミッドがあるギザに住んでいます。それで彼女はカイロからアレクサンドリアへの電車を私たちに予約してくれました。私達はそれを大変楽しみにしていました。それは、実際に私たちがエジプトに行ったメインの理由の一つでした。私達は交通渋滞で電車に乗り遅れました。皆さんはハワイの交通渋滞がひどいと思ってるでしょうが、カイロに行ってみてください。エジプトのカイロに行くまでは本当の渋滞を知ることになりません。やっとそこへ辿り着きましたが、私達は、電車に乗り遅れてしまって、叔母は、まだ行きたいのなら、タクシーを拾ってあげると言いました。私達は「はい、まだ行きたいです。」と言いました。それで、彼女はタクシーを拾い、運賃に同意しました。それもまた...それで私たちはそのタクシーに乗り込み、妻は後ろに座りました。私は助手席に座っています。同胞であるエジプト人でイスラム教徒の運転手です。この人は、行先に早く着けば着くほど、多く稼げることを知っています。それで彼はすごいスピードで運転しました。あまりにもすごかったので、ある時点で私はアラビア語で彼に言いました。「スピードを落とさなければ、お金にならないよ。」どうでしょう？

ある時点で... なんという事でしょう。エアコンはありませんでした。窓が開いていて、大変埃っぽく、大変匂うし、惨めで悲惨でした。ある地点で後部座席の妻を見たら、彼女はこんな表情をしていました。

「私たちはイエス様に会うことになるわ...」私たちはエジプトのアレクサンドリアを見ることはなく、イエスに会うことになる。これで終わりだから。ある時点で、彼はトラックを追い越したんですが、すごくスレスレで、もし私が窓に肘をかけていたら、トラックにぶつかっていたでしょう。それほど接近したのです。嘘じゃありません。私はもうこれで終わりだと思いました。こうやって死ぬんだ。この話はちゃんとつながっています。こんな風に私を見てらっしゃる皆さんもいますが、、

「何なの??」 途中から私は道路標識を探し始めました。アレクサンドリアまで、あとどのくらいか、知りたかったからです。早ければ早いほどいい。それが私たちの唯一の望みでした。そして、それから私は一つを見つけました。「ああ、イエス様、ありがとうございます。」それはキロ表示で、アラビア語でした。もちろん英語もありました。でも、「希望があるぞ。もうそんなに長くはないぞ。そんな遠くない。」そして、近づくほど標識が頻繁に現れ、喜びと希望が増えました。私たちがアレクサンドリアに近づくにつれ、距離を示す標識があり、あとどのくらい、もう少し、そして、「アレクサンドリア到着！」これらの標識＝しるしこそが、私にとっての望みでした。このように言うてよろしいですか？祝福された望み。私たちは辿り着く！と。最終目的地に到着するという希望。車から降りて、妻を見ました。可哀そうに...彼女はとても美しい女性です。彼女はサングラスをかけていましたが、サングラスを外したら、彼女の肌は、私の肌の色ようになっていました。すっかり茶色になってました。彼女は、埃と汚れにまみれて茶色くなり、私達はその時だけ、異人種カップルではなくなりました。それは私の記憶の中で消えることのないイメージです。私たちは皆、このタクシーに乗って、アレクサンドリアに行く途中です。そしてその道沿いには、標識＝サイン・兆候があり、私たちがどれだけ近いかを示しています。皆さんこの例えが分かりますね？7年間の患難に近づくにつれて、預言の兆候は頻度と強度を両方、増していきます。近づくほどしるし(サイン)が多くなります。今の世界がいかに大惨事の瀬戸際にあるかという問題について、主が私に語らせようとしておられると感じたのは、これが理由です。私は報道された事を引用したり、統計を列挙するつもりはありません。それはたくさんありますけど。そうしないのには、いくつかの理由があります。その最たるものは、もし皆さんが私のようなだったら、たぶんそうだと思いますが、もう何が真実であるかを知ることが本当に難しくなっています。1つの報告を聞いた後、矛盾する報告を聞きます。訳が分からなくて、何を信じればいいのか分からなくなります。それは、混乱の作者である悪魔からのものに他ならないと思います。私が報道を引用したり、統計を列挙しないもう一つの理由は、—それらはすごく悲観的で—それには時間がかかり過ぎることです。率直に言って、ロケット科学者でなくても、どれだけ悲惨な状況なのか理解できます。同意されますか？ 私は特権として、この説教壇の後ろから語らせていただきながら、私が語り掛けている地元の人たちの中に、職を失い、生計を失った方々がいる事ははっきりと認識しています。オンラインでも多くの方々が。私が読んでいる数字が、皆さんが読んでいる数字と同じで、その数字が正確なものならば、これを見ている人が大勢いますが、それらの数字に基づいて言うと、あまり良いとは思えません。私は皆さんを励ましたいのです。神はいつも養って下さいます。おそらく皆さんが想像もできなかったような方法でそうしてくださいませ。彼は皆さんが夢にも思わなかった方法で目に見えない宝物庫から与えて下さいます。神は必ず養ってくださいませ。神はいつもご自身に属する者の面倒を見られます。私は、世界経済が金融破綻の瀬戸際にあると信じています。ただ時間の問題です。私はまた中東が、

全面戦争の瀬戸際にあるとも信じています。これはまさに聖書の中で起こると言われていることです。聖書の多くの預言が、未来にあるこの出来事について語っています。私は、COVID-19/コロナこそが、全てを崩すための手段であると主張します。「勇敢な新世界秩序への大いなる再設定」と呼ばれるものを再起動するためです。彼らの言葉です。私が言おうとしている事は、何人かの人には理解するのが難しい事かもしれませんが、それでも言います。このすべてのことが起こるのを許しておられるお方は、神です。忘れないで下さい。これははととても重要です。これは多くのクリスチャンが、愛する神との関係に関して、たくさん問題にぶつかる場所です。悪魔は神の悪魔です。悪魔は神と同等ではありません。悪魔は、全知ではなく、全能ではなく、偏在できず、全知全能ではなく、万能ではなく、同時存在ではありません。彼は創造された存在です。彼には制限があります。神が彼にお許しにならない限り、悪魔は何もできません。神は、最終的に、神の究極の目的を果たすことにならない限り、悪魔が何をする事も決してお許しになりません。それが神の栄光、神の御国、そして私たちの益のためにならない限り、悪魔に出来ることは何もありません。「ちょっと待って、牧師先生、何を言っているのですか？」「神はこれをすべて許しておられるのですか？」「はい。」なぜなら悪魔はできないのです。ヨブに聞いて下さい。皆さん、天国に着いたら聞けるでしょう。待ちきれませんね。もちろん、私たちはいつもそう言っていますよね？「天国に着いたら、私は主に尋ねるぞ。」「いいえ、尋ねたりしませんよ！」お聞きください。まず千年王国があります。千年王国の間、皆さんは主に何も尋ねることはないでしょう。あなたはこんなになつてははずですから...それはまだ天国でもありません。永遠の未来。最初の1兆、10兆、何億、無限の年数、あなたは「ふさわしい子羊～」となるでしょう。皆さんは神に何も尋ねたりせず、すべての事で神を称賛しているでしょう。神が全てを許しておられます。すべての事が、神の預言的な計画に従って完璧に進んでいます。これで疑問が持ち上がります。「なぜ？」という質問です。なぜ神は、この全てが起こることを許されているのですか？良い質問です。理由は2つあると思います。まずは、クリスチャンのため。神は、この世での私たちの生活が、あまりにも悲惨で耐え難いものになるのを許され、私たちがこれ以上ここに居たくないと思うようにしておられます。神がこれが起こるのをお許しになっているのは、私たちができるだけ早く最終目的地であるアレクサンドリアに到達したいと願うためです。これはとても惨めで耐え難いからです。私は告白しなければなりません。以前にも話したことは分かっていますが、私はただ皆さんに正直になって、包み隠さず、率直になっています。妻は、カイルアガールとして生まれ育ちました。私たちは34年前に本土で会いました。うわー、ずいぶん昔のことです。そして、私たちは教会を始めるために2003年に、ここに移り住みました。そして、ご存知、こう言われますね。カイルアから女の子を連れ出すことは出来るが、女の子からカイルを取り出すことは出来ない。それで私は彼女を連れて戻りました。ご存知の通り、私は、大義のために殉教したわけではありません。「ハワイに行って教会を始めるように、神があなたを召したって？そうでしょうとも。」「私はここにおります。主よ、私をお遣わしてください。」誰かがやらねばならない！主のために苦しんで。その重荷。しばらくの間は、そんな感じでした。ああなんと！私は覚えています。カイルアビーチを歩きながら、素晴らしい聖書の教えを聞き、賛美を聞き、私は天国にいるような気がした事が何度あったでしょうか。地上の楽園で。私には良い思い出があります...私は今、ビーチに行っても、もうそうではありません。私は、デビー・ダウナーのような超ネガティブな印象は与えたくありませんが、※デビー・ダウナー：周囲の人々の気分を低下させる誰かを指す俗語 しかし、太陽は以前ほど明るくは輝きません。ビーチはかつてほど美しくなく、それは良い事です...なぜなら、私は、それは、神が こう仰っ

ているんだと思うからです。「あなたがここであまりにも快適になったら、あなたは去りたくないでしょう。状況が今みたいに不快になり、悲惨になり、耐えられなくなってからやっつと、あなたは去りたくなるのだから。」

高校時代、私は教師の子供でした。父は先生でした。彼は私の先生で、私に「ファラグ先生」と呼ばせました。私は反抗しました。私はまだ主を知りませんでした。私を裁かないでください。私は停学になり、ほとんど退学になり、 苦労して卒業しました。私にとって高校は酷いものでした。皆さんには、素晴らしかったかも。 そうだったなら主を褒め称えます。先生たちが、「高校生時代は人生で最高の時代！」と言うのも、助けになりません。私はただ...「これが？」「これが最高だって？！」「これが最高の？！」まあ...ここから先はずっと下り坂。しかし、私は出て行くのが待ちきれなかったんです。卒業するのが待ちきれなかった。ある先生がいました。クリスチャンではありません。私をそばに呼んで...これは主の働きでした。ちなみに、主はクリスチャンではない人を通して 語ることがお出来になるのです。知ってますよね？ これは主でした。私が19歳でイエス・キリストについての 救いの知識を得る前です。卒業後、その先生は私をそばに呼んで こう言いました。「聞いて。」「高校時代がとても良かったら、卒業したくなくなるよね。あなたが教師の子供で、大変だったから、あなたは卒業後は、きっと...本格的 に始めるわよ。すぐに全力で取り組んで。」そして彼女は長年見て来た多くの生徒たちの話を してくれました。高校時代が最高だった人たちは、 まだその過去の中に生きている、と。彼らは卒業する事がなかったんです。彼らは先に進まなかった。 それを望まなかったんです。良すぎたから。最高だったから。お許し下さいね、でも、このために私は未だに「**MakeAmericaGreatAgain**=アメリカを再び偉大に」を容易に受け入れられないんです本当なんです。皆さんにその理由をお伝えします。「私、今、言いました？」「いや言っていないぞ。」「いやいや言いました。」言っちゃいましたよね？ もし、ここ地上での私たちの生活が とても素晴らしいなら、そういう時は、永遠は素晴らしくないからです。皆さん、「神は苦しむ人々を慰められる」と 言われるのを聞いたことがあるでしょう。皆さんはまた、「神は快適な者を苦しめられる」と 言われるのも聞いたことがありますか？ 神は問題を抱えています。神には問題はないのですが、 より良い言い方がないので。神が抱えている問題...それが問題だとすれば、問題は...神は私たちをA地点から B地点に移動させたいと望んでおられます。しかし、問題は、私たちはA地点であまりにも 居心地がよく、快適になり過ぎて、 B地点の事など思いもよりません。話題にさえならない。では、 B地点を考慮させるために、 神は何をされるのでしょうか？ ましてや、私たちをB地点に動かすためには？ ああ、神はこれが本当にお得意です。彼はA地点を混乱させます。彼はA地点をかき回されます。彼はA地点で、困難と辛苦を許されます。すると私たちはA地点で、「神様、何をされてるのですか？」「私は今あなたの注意を引いたね。」「は、はい。何でしょうか？？？」「こっちに来させたいんだ。」「あなたにこっちに来させる方法は唯一、あなたにそこを手放させること。」私の言いたいことが分かりますね？ 私がこう言ったら信じて下さいますか？ この危機が起こって以来、多数の人が...私たちは栄光のこちら側(地上)では絶対に知ることはありませんが、多数の人々が、この危機のためにイエス・キリストの救いに辿り着いているのです。私はさらに踏み込んで言います。多くのクリスチャンが主のもとに戻ってきました。彼らは主に関する物事に真剣になりました。この危機のお陰で。だから神はそれを許しておられるのです。クリスチャンのために。まあ、その反対側もあります。悲しいことに、そして逆に、クリスチャンではない人々にとって、彼らの人生も非常に悲惨で耐え難くなるでしょう。しかし、彼らは取り残され、通常に似たものを 取り戻すためなら、何でもするでしょう。

彼らの前にぶら下がっているのは、まだ未来のものであるワクチンです。それが彼らの「ゴールデンチケット」です。あなたは人生を取り戻したいですか？ マスク着用がお嫌ですか？ 社会的距離がお嫌ですか？ 仕事を取り戻し、人生を取り戻し、自由を取り戻したいですか？ これがその手段です。

皮肉なことに、彼らはそれを「新しい通常」と呼びます。逆説中の逆説です。新しいなら通常ではなく、通常なら新しくはありませんから。新しい通常、、、すみません。私は過去4か月間、多くの皆さん、特にオンラインメンバーから多くのことを学び、本当に良い情報を頂きました。これが最初に起こったとき、私たちは本当に 何に対峙しているのか分かりませんでしたから。その後、より多くの情報が出始めたので、私たちは本当は何が起きているのかを 理解し始めました。これは策略です。そして、神がそれをお許しになっているんです。 私がこれを言うておかなかつたら、恐らく 重大な怠慢になるでしょう。もしあなたがまだ、私たちが知っているあの生活が、戻ってくると信じているなら、申し訳ありませんが、元の状態には戻らないと申し上げます。現実には、何ヶ月も前に、私達は帰還不能点を過ぎました。この世界での私たちの生活は、決して以前のようなものにはならないでしょう。私は特にこの4ヶ月間、神の預言の御言葉のレンズを通し、起きている全てのことの重要性を皆さんにお伝えするために最善を尽くしてきました。ずっとご一緒でなかった皆さんには、3月29日の預言アップデートに戻ってご覧になることをお勧めしたいと思います。それ以降のアップデートも。私たちはすべての特許について非常に詳しく話しました。こういう策略があつて、それがいかに、「世界再設定」のために事前に計画されていたか。世界経済フォーラム、ビル&メリнда・ゲイツ財団、そしてロックフェラー財団によって。これは何年も前から計画されています。あるアップデートでは、2010年の、ロックフェラー財団作成の「未来のシナリオ」の報告から引用したのを覚えています。「誰もがマスク着用する必要があります。」 2010年、10年前ですよ。もしも〜し！誰もがマスク着用する必要があります！誰もが社会的距離をとる！我々は監視します！10年前です。台本みたいです。そしてそれが まさに、今日起こっています。それが起きているのです。本当に起こっています。過去14年間、私は最善を尽くしてきました... またしても、ちゃんと言おうとしている事がありますから、ご辛抱ください。私はこの毎週の預言アップデートをする上で、時刻の遅さ、私達が生きている時代の緊急性を皆さんに知らせるために 最善を尽くしてきました。実際、それは2006年でした。 私はそれを非常にはっきりと覚えています。それは娘、ノエルが亡くなった年でした。そして私はただ感じたんです。バラク・オバマが大統領に選出される二年前でした。私がただ主から感じたのは、私が聖書預言を教え、終わりの時代について話し始めるべきだという事でした。私が主から感じていたのは、私たちが 人類史上の中である時代に入ろうとしていた事で、それは私たちがこれまでに見たことがなく、また、もう二度と見ることもない時代だ、と。それは14年前のことです。14年後の今... もしあなたが私に言っていたとしたら、これが本当に私の不意をついたことを認めなければなりません。やっぱり、私は木に近すぎて、森が見えてなくて、「多分こんな感じになるんだろう」と思っていたら、どこからともなく、ブーン！うわあ！そうじゃなかったのかも。もしかしたら、これなのかも。私がそう言ったのは、私は本当に心から信じているからです。私たちは今、私たちの誰にも想像もつかないほど、教会携挙に近づいています。「牧師先生、あなたは14年間そう仰っています。」分かっていますよ。しかし、私たちは実際に近づいています。一日たつごとに、一日分。。。それが非常に奥深い事なのは承知してますけど...先週、主との時間の中に、私は祈っていました。実際、私は秋口に携挙について話をする予定でした。しかし、私が今日これをしている理由は、すべてが非常に速く起きているからです。単純に言えば、すばやく展開しているように

見えるシナリオは... ーどうかしっかり聞いてください。ーそれは私たちにとって突然の携挙であり、彼らにとっての突然の滅びであるようです。皆さんが少しでも私みたいだったら、そして、そうだと思いますが、特に聖書預言を学ぶ方にとっては、考慮から外れるものは何もありません。その意味を説明させてください。もう何でもあり、という具合です。そして、もし私たちが預言に関する論議から取り除いていたものがあつたなら、それを再び考慮に入れて、再考するべきでしょう。特に聖書に書かれている事や預言に関しては。この危機以前は、私たちは聖書預言に対して、現在とは異なる見方をしていました。同意しますか？

私は当然ながら、それが私たちに、聖書の多くの聖句、これらの預言的な個所を再び学ばせることになったと思います。そのような個所は、私個人では、第一テサロニケの5章です。1～5節を読みます。私はこれを考慮に入れ直さねばなりませんでした。言わば、埃を吹き飛ばして、再考しました。パウロは携挙の文脈で書いています。そして一節、彼はこう言います。「兄弟たち。その時と時期については、あなたがたに書き送る必要はありません。」「主の日は、盗人が夜やって来るように来ることを、あなたがた自身よく知っているからです。」「人々が『平和だ、安全だ』と言っているとき、...」新約聖書の原語ギリシャ語で、安全という言葉はギリシャ語でアスファレイアです。そして、それは保障あるいは安全と訳すことができます。「安全」としましょう。平和だ、安全だ。「人々が『平和だ、安全だ』と言っているとき、妊婦に産みの苦しみが臨むように、“突然”の破滅が彼らを襲います。突然の破滅。「突然の破滅」と聞いて私が考える事がわかりますか？

それは、「突然」なんです。やっぱり、とても奥深いでしょう。そしてパウロは救い主ご自身と同じことを言い、産みの苦しみをしている陣痛中の女性を例えに出してきます。彼は、「妊婦に産みの苦しみが臨むように、“突然”の破滅が彼らを襲います。」と語りました。彼が次に言うことを注意深くお聞きください。

「(彼らは) それを逃れることは決してできません。」 (第一テサロニケ 5:1～3)

キーワード=彼ら 言外の意味は、逃れる人たちがいるという事です。あなたも私と同じ事をお考えですか？「しかし、兄弟たち。あなたがたは、、、」彼らは逃げられないが、あなたがたは、「しかし、兄弟たち。あなたがたは暗闇の中にいないので、その日が盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。」それがユダヤ人の慣用語なのは知っていますが、この夜中の盗人について、お考え下さい。泥棒がメールや電話をしてきて、「ねえ、夜中の2時か3時は都合いいですか？」なんて言われたことありますか？驚きの要素ですね。

「その日が盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもなのです。私たちは夜の者、闇の者ではありません。」 (第一テサロニケ 5:4～5)

「私たち」と「彼ら」の間の区別に注目ください。4章でそれについて話したばかりです。一つ前の章です。彼はまた携挙の文脈で言います。「生き残っている“私たち”が...」「彼ら」ではありません。「私たち」が引き上げられるのです。彼らは上げられません。敢えて言いますと、「私たち」は、来る御怒りから逃れます。彼らは逃げられない。その突然の破壊が彼らに降りかかりますが、もしかして、それが降りかかる時に、私たちが上に行くという事はあるでしょうか？ 要点は次の通りです。この危機が、現在の世界システムの組織的な破壊と信じられているものにつながるなら、私たちは患難の瀬戸際にいます。すべての標識がその方向を指しています。それが目的地です。それが全てが向かっている所です。そして、私たちが7年の患難の瀬戸際にいて、携挙が7年間の患難前に起こらなければならないなら、私たちは携挙の瀬戸際にいます。それが私の論理です。ここで、前述の大患難前携挙の話に移ります。それとともに、私たちが信じている事をなぜ自分たちが信じるのかを、特に今、知ることの重要性につい

て。どうかご辛抱ください。9年前の2011年、私は、教会携挙が7年間の患難前に起こらなければならない理由について、8週間のシリーズを行いました。起こらなければなりません。「まあ、あなたはかなり独断的ですね。」 「はい、そうです。」 患難中期携挙、御怒り前携挙、患難後携挙 はどうですか？ 彼らは間違っています。どうしてそんなに確信できますか？ より確かな預言の御言葉のお陰です。人の解釈によるものではありません。携挙が7年間の患難前にないなら、そんなのとんでもないですが、それならば、聖書の大部分を 破り捨てることになります。私は何人かの非常に優れた教師たちが、7年間の患難を証明するための特効薬は 存在しないと知っているのを聞いた事があります。私は敬意を持って異議を唱えます。私は「特効薬」とも言えるものは複数あると思います。合理的疑いの余地なき程度で証明するのではなく、全く何の疑いもなく、携挙が7年の患難前に、絶対に 起こらねばならない事を証明するものです。1つだけ言えば、患難は、「ヤコブの苦難の時」です。皆さんはヤコブではありません。ヤコブとは誰でしょうか？ イスラエルです。患難は、イスラエルの苦難の時なのです。ダニエルの第70週目。7年間の患難の目的は、ユダヤ人国家の救いです。私たちはすでに救われています。私たちは御怒りに合うようには定められていません。イエス・キリストの花嫁である私たちに、少しの間でも患難時代を経験させる事に、何の意味があるのでしょうか。なぜこの話をするのか？ なぜなら、主が私に別の事を示して下さいという限り、来週のアップデートでは、主の御心ならば、これについてお教えしようと計画しています。そして皆さんの祈りを切にお願いします。大患難前携挙に関する 8 週間分の教を 一回の預言アップデートに凝縮しますから。「患難前携挙の証拠。」ですから皆さんは、お越しになるなら、歯ブラシとパジャマを持参して下さい（笑）まだわかりません。今週、私はそれについて 主にお伺いします。繰り返しますが、皆さんの祈りを 本当に切望します。もしかしたら、節ごとの第一テモテの学びを取りやめて、9時からライブ配信される第一礼拝でパート1をやって、そして11時15分からライブ配信される第二礼拝でパート2を行う事もあるかもしれません。急ぎ過ぎる事がないように。とにかく簡約しないとイケないんですが、何も抜かしたくありません。主の御心であれば、私が来週やりたいことは、証明することですから。7年の患難前に携挙が起きなければならない事を 証明する証拠があります。「牧師先生、なぜ今これをされるのですか？」 何故これは、このトピックに預言アップデートの時間、そして実際、日曜日の朝全てを費やすほど 大事なのでしょうか？ それは、もし大患難前携挙について あなたに不安があったり、確信が持てなかったりするなら、主は私の心を知っておられますが、私は愛をもってこの真実を語ります。私はあなたを大変気の毒に思います。正直なところ、私は あなたがどうやってやっているのか分かりません。どうやって...？ 何と...？ どうやって...？ どうやって眠れますか？ どうやってパニックにならずにいられるのですか？ もし携挙が7年間の患難前ではないなら。もし今私とその事について、少しでも 曖昧さや不安を持っていたとしたら？ 私は.....私はここに立ってはいないでしょう。トンネルを掘っているでしょう。いいえ、私は笑わせようとしている わけではありません。私がこれをするのは、何よりもまず第一に、これを行う必要があると、主から 示されている気がするからです。多くの方々が不必要で無駄な心配と、恐怖と、不安の中で生きておられるからです。私たちが今生きているこの世の未来の 不確実性に関連して。これは以前に何度も言いましたが、皆さんウンザリな事をお願い。もう一度言います。もう終わりますから。ご忍耐感謝します。これは大げさに言っているのではなく、私を知っている皆さんは、これが真実であることを 知っておられます。健全な教義であり、聖書の真実である 患難前携挙がなかったなら、私は文字通り気が狂っているでしょう。私は正気を失うでしょう。真剣に言っています。大げさな話ではありません。私には大地

を揺るがすほどの事でしょう。なぜなら、もしあなたが教会携挙においてイエス・キリストが間もなく戻って来られるという祝福された希望を私から奪うなら、私は進み続ける事ができません。もうまもなく、あのラッパが鳴り響き、私のイエスがこの世から私を連れ出すために戻ってくることを知っている事、それが私が、夜、枕に頭を乗せて眠れることを可能にしてくれているのです。それが私が、朝ベッドから起きて、仕事をするのを可能にしてくれているのです。それがなかったなら、私は胎児のように丸くなっているでしょう。最後に言わせてください。私達は、切迫性の教義に関して、どんな不確定要素も許されない時代に生きています。それは差し迫っています。携挙は差し迫っています。携挙が起こる前に、起こらねばならぬ事は何もありません。いつでも起こり得るのです。

これが私達が預言アップデートをする理由です。これが私達が、イエス・キリストの福音で締めくくり、また、「救いのABC」という子供にでも分かる簡単な説明で締めくくる理由です。福音とは何でしょうか。福音とは、「良い知らせ」という意味の言葉です。「あなたの負債は支払われた。自由に行っていいんだよ。」それが福音という言葉の意味です。「ちょっと待って。何の負債？ どういう意味ですか？」あれご存知ないのですか？ 聞いてないのですか？ あなたは死に定められています。あなたは罪びととして生まれたので、死刑宣告を受けています。ですから、天の御国に入る為には、新生しなければなりません。それが良い知らせ。それが救いのABCというものです。イエス・キリストが来られ、十字架につけられ、葬られ、3日目によみがえられた。そして彼はいつか戻ってきます。それが福音で、良い知らせです。それは良い知らせですよ？ 今のような世の中では？

A：自分が神に背いた罪びとであるのを、また自分には救い主が必要であると **Admit/認める** または、**Acknowledge/認識**する。これは分かりきった事だと思われるかもしれませんが確かに、すでにイエス・キリストの救いに辿り着いた信者はそう思うでしょう。しかし、これは最大の障害の一つであり、最初に対処されねばなりません。なぜなら、普通の平均的な人と話すとき、彼らと主を分かち合うとき、彼らと福音を分かち合うときに、一つ障害になる事、一つ妨げになる事は、自分は善人だと思っていることです。善人が天国に行き、悪人が地獄に落ちるとするのは、偽りの父からの嘘なんです。実はそれは正反対です。天国には大悪人がたくさんいます。私とその最前列に立ちます。そんな目で私を見ないでください。皆さんだって私の後ろ、結構近い所に並んでるでしょうから。地獄には善人がたくさんいるでしょう。なぜなら、善良であることが、あなたが永遠へと入る為の測定基準ではないからです。善人は一人もいません。あなたは良い方で善人かもしれません。でも決して十分ではないのです。ローマ人への手紙3章10節に、

「正しい者はいない。一人もいない。」(ローマ 3:10)

ローマ人への手紙3章23節が理由を教えてください。

「人は皆(私たちの誰しもが)、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっています」(ローマ 3:23) 実際、それこそが罪という言葉の意味なのです。的外れな事。アーチェリー用語です。これは面白いんです。アーチェリーに興味のある人がいるかどうか分かりませんが、矢を放って的外したら、彼らはこう言います。「あなた罪を犯した! 罪びとだ!」「何だって? 私は的外したんだ。」それが罪の意味です。あなたは的外を外したんです。届かなかったのです。私達は誰しも罪を犯し、私たちは皆、神の完璧な正義の基準である完璧な的外から外れてしまっているのです。それが罪の意味です。OK。では、どうなるのですか? はい。さっきの悪い知らせです。どなたかがあなたの所に来て、「良い知らせと悪い知らせがある。どちらを先に聞きたいですか?」って言われるのは嫌ではありませんか? 私は言いま

す。下がれサタン！悪い知らせは聞きたくありません。良い知らせだけを聞きたいです。いいえ、悪い知らせは聞く必要があります。なぜなら、悪い知らせが悪ければ悪いほど、良い知らせがさらに良くなるからです。正しい英語でないのは分かっていますから メール下さらなくて結構です。悪い知らせとは？ それは、的を外した事には、罰則があるという事です。罪の罰則があります。死刑宣告です。ローマ人への手紙6章23節に、

「罪が支払う報酬は死です。…」(ローマ 6 : 23a)

しかし、ここに良い知らせがあります。

「しかし、神の賜物は、私たちの 主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。」(ローマ 6 : 23b) ちょっとだけ時間をください。「賜物」という言葉に注目したいのです。贈り物とは？ 誰かがあなたにくれる物で、彼らはその支払いをした物です。あなたではなくて。あなたが支払うなら、それは贈り物ではなく、購入ですね？そこはいいですか？イエスは、私達に贈り物として下さるものを購入されました。そう、彼が買ったのです。その代金を支払われました。いくらかかったのでしょうか？彼の全てです。イエスが全額支払いました。彼はご自身の血潮で、私達を購入されました。それが完済されていて、

「完了した」ので、彼は、永遠のいのちという贈り物を 私達に差し出して下さっているのです。どうやって？ イエスは私達の代わりに死なれたのです。ご自分の血を流して。聖書が語っています。

「血を流すことがなければ、罪の赦しはありません。」(ヘブル 9 : 22)

イエスは、私達の全ての罪の代価のために、ご自分の血を流されました。そして彼はこの贈り物を提供されています。私達は自分で獲得するわけではありません。

「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。」(エペソ 2 : 8)

「行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。」(エペソ 2 : 9)

皆さん、ご想像できますか？私達が天国に入るために何か出来ることあるとしたら、それは天国じゃなく、もう一方の場所だと思います。なぜなら、天にこう言う人が出てくるでしょうから。「おい、ここに来るために君は何をしたんだ？「あ～私がしたのはさ～」「そんなの大したっことない、私はね…」それは天国ではありません。「私はここに入るために、これこれをしたんだ」などと言える人は一人もいません。私は何もしていません。全てイエスがしてくださったのです。次にB

B : あなたの心で、イエス・キリストが主であると神がイエスを死からよみがえらせたことを、

Believe/信じる。ローマ人への手紙10章9～10節

「口でイエスが主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。」(ローマ 10 : 9)

私は、その言い方が大好きです。暫定ではないからです。「かもしれない」とか、「あり得る」とか、「そのはずだ」ではなく、「そうなる」のです。決定打。審議は終わり、評決は出ているのです。そして最後にC

C : 主の御名を Cal/呼び求める。ローマ人への手紙10章9～10節が言うように、 Confess/告白する。因みに、全ての者が膝を屈める事になります。全ての舌が、イエス・キリストが主であると告白します。彼が主であると。ここで問題です。彼らが、、、その区別について話しましたね？私たちは「彼ら」ではなく、私たちは「私たち」です。私たちが告白する時、それは救いのためであり、彼らが自分の口で告白する時は、破滅のためなのです。再度、ローマ人への手紙 10章9～10節、

「口でイエスが主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるな

ら、あなたは救われるからです。」(ローマ 10 : 9)

その理由は、

「実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。」(ローマ 10 : 10) 最後にローマ人への手紙 10 章 13 節で、その方法、大変シンプルです。

『主の名を呼び求める者は誰でも救われる。』(ローマ 10 : 13)

ご起立ください。祈りで終わりましょう。オンラインでご覧の方々へ、再度、今日ご参加下さって大変うれしく思っています。まだご覧になっておられるなら、私はお祈りいたします。特に、どなたか...

あなたがこのビデオをご覧になっているのは、偶然ではなく、理由があるのです。それは、神があなたをここへ導かれたからです。今日があなたの救いの日だからです。今日です。先延ばしにしないでください。永遠のいのちのために、あなたの人生で最も重要な決断を先延ばしにしないでください。心からあなたにお願いします。今日、主の御名前を呼び求め、あなたの口で告白し、あなたの心で信じ、罪の赦しのためにイエスを信頼してください。彼が罪の代価を支払ってくださったのです。キリストの下に来る前に、あなたがご自身の行いを改める必要はありません。それはシャワーを浴びる前に、お風呂に入るようなもの。滑稽です。イエスがあなたを清めます。彼は真実で、正しいお方です。私たちが自分の罪を告白すると、第一ヨハネ 1 章 9 節に語られている通り、

「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義から きよめてくださいます。」 (第一ヨハネ 1 : 9)

今までどんな極悪非道をしたとしても、因みに再度、ハワイ時間 11 : 15 からの 第二礼拝にご参加されることをお勧めします。まさにその事についてお話ししますから。祈りましょう。

天の御父よ、ありがとうございます。主よなんといいのか、、、どう祈ればいいのかも分かりません。なぜなら、あなたが起こると仰った事がすべて今起こっているからです。イエス様、あなたは仰いました。

「今わたしは、それが起こる前にあなたがたに話しました。それが起こったとき、あなたがたが信じる為です。」 (ヨハネ 14 : 29)

またあなたは仰いました。

「これらのことが起こり始めたら、身を起こし、頭を上げなさい。あなたがたの贖いが近づいているからです。」 (ルカ 21 : 28)

そう望むとか、そう願う、ではなく、私たちは、私たちの贖いがとても近づいているのを「知っている」からです。主よ、私たちは、あなたが戸口におられるのを信じます。主よ、私は、あなたをお迎える用意のない方が、あなたと正しい関係になる事を祈ります。あのラッパが鳴る時、それが彼らにとって、夜中の盗人のようになりませんように。イエスの御名によって。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペル・カネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

CalvaryChapelKaneohe47-525KamehamehaHwy.Kaneohe,Hawaii

筆記hukuinn7